

遷移が進行した希少個体群保護林（大峰山クヌギ、漆沢岳外山オニグルミ）の モニタリング調査プロットの追加について

1 令和4年度第2回保護林管理委員会における報告内容

上記2箇所の保護林について、下記のとおりモニタリング調査結果と今後の対応方針を報告した。

(1) モニタリング結果

調査プロット内で保護対象樹種の更新が確認できない状況であり、枯死も見られ生育個体数は減少傾向である。

(2) 今後の対応方針

- ・ 定期的な巡視の継続
- ・ 5年後にモニタリングを実施
- ・ 保護林内の保護対象樹種の生育状況及び更新状況の把握

このことをうけ、遷移の進行状況の把握のため、令和5年5月29日に大峰山クヌギ遺伝資源希少個体群保護林（別添1）、翌5月30日に漆沢岳外山オニグルミ遺伝資源希少個体群保護林（別添2）について現地調査を行った。

2 保護林の遷移の進行状況

当該保護林全体の林況としては、より環境に適した樹種が勢力を増しつつある印象ではあるが、別添のとおり、母樹の周辺を中心に保護対象樹種の稚樹や幼樹を確認している。

3 今後の方針

上記2箇所の保護林については、遷移の進行を観察・記録することにより学術上並びに森林施業上の資料とするため、稚樹が発生している箇所への新たな調査プロットを各1か所追加で設定し、5年に1度のモニタリング調査を行うこととする。

(別添1) 大峰山クヌギ遺伝資源希少個体群保護林

1 保護林の林況



保護林外から見た林内の様子



林内の様子

保護林内ではコナラが優占樹種となっており、保護対象種のクヌギは大径木となり遷移の進行が確認された。なお、保護林内には下層植生が発達し、立ち枯れた個体も見られず病虫獣害による影響は確認されなかった。

2 クヌギの生育状況について



林床の様子

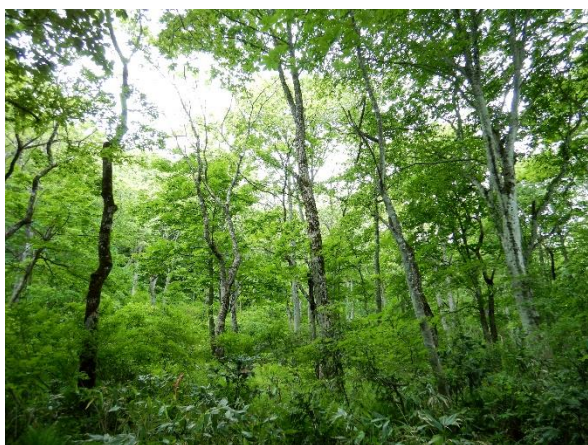


クヌギの稚樹

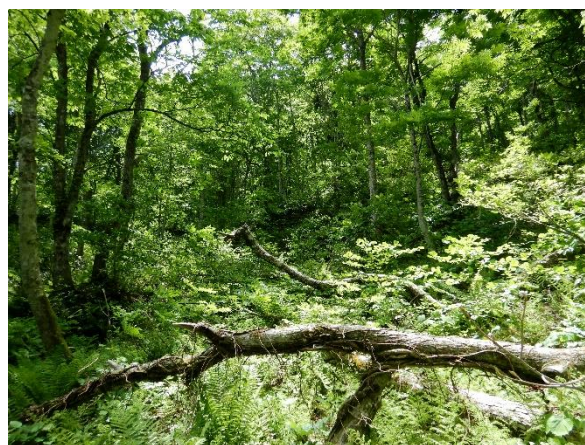
クヌギの稚樹が母樹周辺の林冠が開けた箇所に確認されたことから、不稔ではないことが分かり、ギャップ更新が可能な状況と推定された。保護林全体としてはコナラが優占しているものの、保護対象種であるクヌギも稚樹が生育していることが確認された。

(別添2) 漆沢岳外山オニグルミ遺伝資源希少個体群保護林

1 保護林の林況



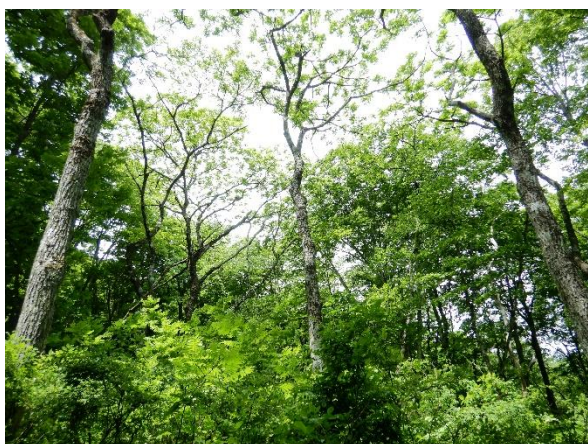
林内の様子



ギャップの様子

保護林内では、保護対象種のオニグルミが多く生育していたほか、サワグルミ、ホオノキ等とともに、小沢が多く流れる湿潤な森林が形成されていた。老齢木の倒伏も散見され、形成されたギャップ内でオニグルミやサワグルミの幼樹が多く見られた。なお、保護林内は下層植生が発達し、立ち枯れた個体も見られず病虫獣害による影響は確認されなかった。

2 オニグルミの生育状況について



オニグルミの更新状況



オニグルミの幼樹

オニグルミの稚幼樹は調査プロット内では少なかったが、調査プロット外で多く確認された。特に、老齢木の倒伏に伴い形成されたギャップ内ではオニグルミの生育が良好であり、幼樹が競合しながら生育している状況が見られた。